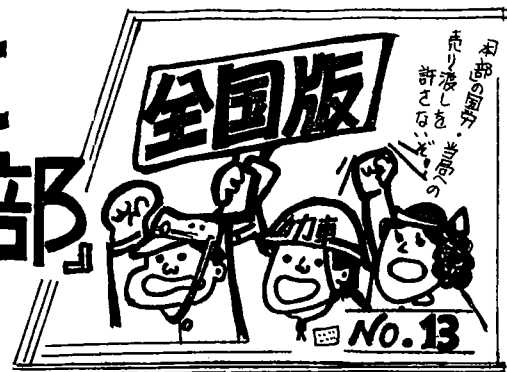


路線的破産のツケを押しつける本部に 動労組合員に



日刊 動労千葉

79.5.13
No.全国版13

国鉄動力車労働組合
千葉地方本部

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二二五八・九(公衆電話)七二〇七

動労組織を当局・国労に売りわたす 「本部」暴力集団！

全国の動労組合員の皆さん！ 七九春闘も統一地方選も放棄し、良心的組合員を引きまわしながら、ひたすら動労千葉破壊のみに専念した「本部」暴力集団は、労働組合にあるまじき策動をもってしても、動労千葉の組合員をひとりも獲得できなかったという重圧の前にあえいでいます。そして、当然のむくいとしてのその破産のツケを全国の動労組合員に負わせようとしています。当面する第一〇四臨時中央委員会(五月一五日)に提起される方針は、そのようなものとしてあるということ、はつきりと見なければなりません。いまこそ決起して、暴力集団の動労私物化の根を断とうではありませんか。

「動労本部」の財政破綻は必至！

第一に、「動労本部」が電話連絡等で明らかにしているように、この間、動労千葉破壊のために革マル学生も含めた「暴力集団」をはじめ、延べ約二二〇〇名の「オルグ」動員をしているという事実を見なければなりません。

動労千葉の組合員をひとりも獲得できない無駄な「オルグ」のために「動労本部」が費した金額は一億円とも二億円とも言われています。ひっぱくする「動労本部」の財政の中で、この金額をどこからヒネリ出そうというのでしょうか。「動労本部」の財政破綻は必至と言わなければなりません。

「運動をすれば金がかかるのは当然」と嘘ぶく暴力集団の指導者の体質からすれば、臨徴ぐらいは「朝メシ前」でしょう。選挙名目のカンパや「隠し財源」の流用も含め、じっくりと監視する必要があります。

国労の組織攻撃に口実を与えた 暴力襲撃！

第二に、ありもしない動労千葉の罪状をあげつらった破壊「オルグ」のために、動労運動を権力や当局、さらには国労に売り渡しているという事実です。

七九春闘戦術設定に際し、拠点指定もせず動労千葉組合員に「国労へ行け」という「オルグ」をしてまで、国労に媚ヘツラウ真意は一体何でしょうか。

国労は「動力車職場の皆さんに訴える」なるビラを千葉管内の職場で配布しています。国労の「一企業一組合論」に基づく戦略は、火事場泥棒的に動労千葉組合員を獲得するだけでは決定的に不十分であり、国労の組織攻撃が全国に波及するのは時間の問題です。この国労の組織攻撃の材料として「4・17津田沼事件」が利用されていきます。

支部長の頭を石でなぐり頭蓋骨々折の重傷を負わすというやうなやり方が、動労全体にとってどのような意味をもつのかは明白であり、「本部」暴力集団の反組織行為はこの一事を見ても歴然としています。

「第二の貨物安定宣言」で「55・10」売り渡しを策動！

第三に、最も犯罪的なこととして、「本部」暴力集団は、動労千葉を弾圧させるための見返り条件として「第二の貨物安定宣言」をもって合理化反対闘争を放棄し、「55・10」を当局に売り渡す策動をしているという事実を暴露しなければなりません。

そもそも、「本部」暴力集団の「三里塚・ジェット」「水本」「貨物安定宣言」「暴力」等々の誤まれる路線が動労をして、このような組織的危機に追い込んでいたのであって、その責任は全て暴力集団とその同調者にあります。

自らの路線的破綻を隠蔽するために、武操型貨物合理化、ローカル線切り捨て、一〇万人合理化の最重要な闘いの場としてある「55・10」を当局に売り渡すようなことを許しておいて動労に未来があるのでしょうか。

セクト的利害で組合を引きまわすな！

全国の動労組合員の皆さん！ 以上述べてきたように「本部」暴力集団とは、自らのセクト的利害のために動労組合員の利益を平気で権力・当局や国労に売り渡す集団なのです。

第一〇四臨時中央方針の中には、このような「本部」暴力集団の意図が巧妙にかくされていることは必至です。

いまこそ決起のときです！ 「本部」暴力集団の悪辣な意図を暴露し、追及し、動労を労働組合本来の闘える組織にするため、共に闘いましょう。